設立　平成24年　5月15日
開塾　平成24年　9月　8日
発行　令和　4年　4月　9日
（107号）

中之島ニュース

［事務局］　〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL　0736-38-3669
FAX　0736-38-3680
発行　學塾・中之島事務局

人間学講座
第113講

日本人の知らない中国四千年の歴史

石平先生



■王の時代と皇帝の時代

中国史上伝説の王朝は夏朝ですが、実在とされる最初の王朝は紀元前一六〇〇年の殷朝です。中国四千年の歴史と言われていますが、この歴史を二つの時代に分けることができます。

一つは「王の時代」です。殷王朝のトップは王様でした。王の時代です。殷朝がつぶれて次に受け継いだのは周朝、やはり統治者は王であり、皇帝ではありません。当時は、皇帝はいなかった。では皇帝が誕生したのはいつか？それは紀元前二二一年のこと。七つの国が覇権を争った戦国時代、秦の国が六つの国を抑えて中国を統一しました。そのとき初めて王という称号に満足できなかった秦王朝は「皇帝」と名乗ることとなった。ここからが「皇帝の時代」です。それまでには皇帝という存在はなかったので、秦の「始皇帝」と呼ばれました。

中国の歴史には常に民衆の反乱があり、秦王朝もできてたった一五年で反乱（陳勝・呉広の乱）により潰れ、その後中国は、民衆の反乱とそれによる王朝崩壊の歴史です。しかし、殷朝と周朝の時代には民衆の反乱は一度もなかった。つまり「王の時代」には反乱はなく、始皇帝以降「皇帝の時代」は、民衆の反乱を繰り返してきました。最後は清王朝も農民の反乱（太平天国の乱）が続き、軍隊内部の反乱も起きて、王朝最後の皇帝も退位し、一九一二年「皇帝の時代」は終わりました。

■天下為公

中国の歴史について、王と皇帝の名称の違いでの区分ではなく、この二つの時代は政治体制が根本的に違います。始皇帝以前の一四〇〇年間は民衆が反乱を起こさなかったのはなぜか？実に大いなる違いがある。王の時代は、王様が庶民を間接統治していた。間接統治とは、日本の江戸時代の幕藩体制にも似ており、封建制により分割統治されていたのです。

王の時代の王様の役割は、争いがあれば仲裁すること。外敵がくれば防衛すること。こうして民衆の秩序の維持に努めた。そしてもう一つ大きな役割として、天下万民のために祈ることでした。日本の天皇陛下と似ています。王の時代は民衆を支配するのではなく、むしろ奉仕していた。それは殷・周とも何百年と続く長命の王朝だった理由であり、その間民衆の反乱がなかった理由です。また最も大事なこととして、王の時代の政治の特徴は「天下為公」、天下は公のためにあるとされ、国の私物化などなかったのです。中国の古き良き時代と言えるでしょう。

■悪しき皇帝政治の伝統

秦の始皇帝以降が皇帝の時代となり、それまでの封建制の諸侯による間接統治は消滅し、直接支配＝中央集権制となった。全国の土地全てが皇帝の支配下となり、皇帝の手足となって官僚が存在した。その官僚も人民と同様僕（しもべ）であり、いわば「一君万民」の政治体制が出来上がりました。封建制とは違って、皇帝による天下の私物化が皇帝時代における最大の特色です。始皇帝が自分の墓を作るために７０万人の民衆（当時全国民２千万人未満）が強制労働させられたことからもそれがわかるでしょう。

宮殿作りも同様です。皇帝による直接支配だからこそこのようなめちゃくちゃな無制限に国民を支配することが続きました。やがて皇帝に対する民衆の不満が反乱を招くことになり、秦王朝は滅亡しましたが、しかし、天下の私物化は始皇帝で終わったわけではありませんでした。その後も前漢王朝の皇帝は劉邦ですが、有名な史書『史記』の中にも「天下為私」という皇帝の基本姿勢が記されています。前漢王朝の国家財政は、何千万人の国民の予算より、皇帝のための帝室予算のほうがずっと多かった。一族がいかに贅沢をしていたか、皇帝の国の私物化が明白です。官僚の質も悪くなり賄賂が当たり前になると、さらに民衆の負担は増し、やがて反乱を招くこととなって、王朝の滅びるきっかけとなりました。中国の歴史はこの繰り返しなのです。

始皇帝以来、外部民族について支配する、という意欲が生まれました。それは皇帝の権力を粉飾するためのイデオロギーとして、「天命思想」があったからです。中国には一神教がなく、神に代わる一番上の存在は天であった。「天」は見えないものだが、人間世界を支配するために「天子」として皇帝の存在があるとし、権力を正当化したのでした。そして皇帝の存在は、国内ばかりか世界中を服従させるべく化け物のようになっていったのです。

このような皇帝の時代も、孫文の革命により、一九一二年の清王朝の崩壊で、名目上終わりました。しかし皇帝の名称はなくなったものの一九四九年、事実上の新皇帝が誕生します。それが毛沢東です。彼が共産党独裁政権を作り全国を支配しました。毛沢東は二七年間これまでの皇帝以上の驚くべき贅沢をし、支配の限りを尽くしました。人民と国家を己のために奉仕させた。今の習近平と同じです。日本の政治の歴史は時代とともに進化してきています。ところが中国の歴史を振り返れば、ますます悪くなり皇帝と民衆の格差が酷くなる一方です。

習近平は毛沢東に倣って君臨しています。なぜ中国で皇帝政治がなくならないのか？その研究を今後も続けていきたいと思っております。

（抄録　中川千都子）

《感動語録集》

◆石　平　先生
「日本人知らない中国四千年の歴史」

＊中国の歴史が二分される。
　王と皇帝の時代で分かれる。
＊日本が華夷秩序に入っていないことがよかった。
＊皇帝政治からの脱却が難しく、多民族国家では共産党でないとまとめられない。
＊「天下為公」天下は公の為にある。
＊王と皇帝は全く別もの。
＊統治は必要。王は直接統治せず見守る。
＊まだ皇帝が続いている。
＊王の時代は民衆の反乱がなかった。
＊日本は一度も朝貢したことがない。
＊皇帝支配の時代は、反乱があり、国の崩壊が幾度もあった。
＊まだ皇帝政治から抜け出せない。
＊習近平は権力を持つことにこだわっている。
＊中国人は、錦の御旗の意味が解らない。
＊秦の始皇帝の前後、王の時代から皇帝の時代、民衆の反乱がくり返していた。
＊これからも日本との関係の厳しさを感じた。
＊殷・周の時代（王様の時代）は、「天下為公」
　秦以降の時代（皇帝の時代）は、「天下為私」
＊我や私欲は自らを滅ぼす。（中国の歴史）
＊孫文の時代は、天下は公の為にある。
　人心不古（人心純朴ならず）
＊中国＝封建社会の時代が良かった。
＊日本＝封建社会がなくなって良かった。



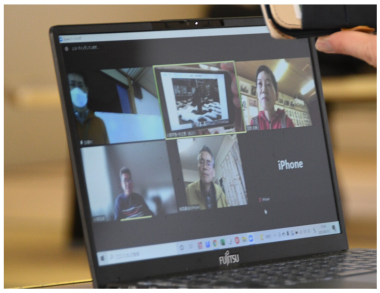








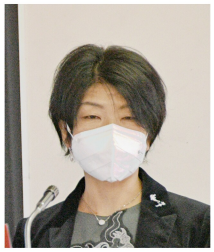




人間学講座
第114講

「孔子を捨てた国――中国」

福島香織先生



■現代中国残酷物語
－中国の人権問題の実情

＊江蘇省徐州市農村の鎖で繋がれた女性事件の衝撃

TikTokで衝撃的な動画がアップロードされ、１月２８日に中国で火がつき、十億回以上再生された。女性が鎖に繋がれて虐待されている様子だが、誘拐されて農村に売られた花嫁ではないか、と世論が騒然となったのだ。２月４日に北京オリンピックを控えていたが、庶民とは関係のないオリンピックよりも、この動画の方に皆の関心が集まった。公表される説明がどんどん変わり、肝心なことが出てこない、政府の発表は信じられない、と。中国では、年間百万人が失踪、うち二十万人が子供だといわれている。何故失踪するのかというと、誘拐、あるいは親が子供を売るから。そして徐州は1990年代に公安とブローカーが結託して人身売買の多かった地域として有名だったからである。皆、自分の子供が拐われるかもしれない、自分が売られるかもしれない、と自分の問題として捉えていたからこそ騒ぎになったのである。

「潜入ルポ中国の女」の取材のため、中国訪れ、売られた花嫁や人身売買ブローカーを取材した。農村への潜入取材の際に案内人として雇った人身売買ブローカーによると、都会で働きたい女性を集めて帰れないところまできたところでレイプして対抗する気力を失わせた上で売りつける。少数民族の女性は、言葉がうまくないので逃げられにくい。そして、ブローカーの奥さんは、公安局局長の娘だから捕まらないという。この取材を行った時から２０年近く経ち、中国では「脱貧困宣言」もなされているが、中国の人権意識、女性蔑視は全く変わっていない。

このようなことが起こる要因には、農村と都会で戸籍が分かれていること、また2015年まで続いた一人っ子政策のため、農村は祖先を祀る男の子が好まれ、女の子は都会に働きに出てしまうので、結婚できない男性は、嫁を人身売買で買うしかない、といった中国の制度の問題も関係している。

＊ウイグル人弾圧

私自身は、ウイグルの専門家ではなく、ウイグル語も話せない。それでも「ウイグル人に何が起きているのか」の本を書いたのは、ウイグル人学者は、中国に嫌われると中国に行けなくなって研究ができなくなるので、ウイグル問題を告発するような事は書けないから。ウイグル人は、イスラム教を信仰している人が多く、宗教の力があるので中国にとっては怖い。そこでウイグルの血を薄め、漢族に同化させようとして、ウイグルの女性を集めて漢民族の工場で働かせたり、結婚させたりして、その民族をなくしてしまう、ジェノサイドを行っている。ウイグル人の子供は寄宿学校に、大人は強制収容所に入れて洗脳教育、そして女性には性暴力をふるう、といったことが行われている。

＊彭帥事件

テニスプレイヤーの彭帥さんが、中国共産党政治局の張高麗との性的関係をSNS上で告白した後、行方不明となった。国営メディアは大丈夫と報道したが、国営メディアは中国のプロパガンダなので、誰も信じない。彼女の安全を広告するため、フランスのメディアが独占取材したが、その記者のインタビューを受けている写真がここにある。写真の中の鏡に、中国IOCの人が写っていて、見張られているということがわかる。取材を受けている際も見張られていて、本当のことが言えない状況にある。

＊ゼロコロナ政策

中国のゼロコロナ政策は、人権がないからこそできるもの。コロナ感染者が見つかり次第、有無を言わさず隔離する政策は、感染力の強いオミクロン株の流行で、もはや有効な対策ではないが、習近平が決めたことなので止めることができない。

■現代中国若者の諦観

若い中国の若者は人権問題をどう捉えているのか。中国で貧富の格差が大きいのは、都会と農村で分けられた戸籍の問題。そして中国では共産党のヒエラルキーが強く、階級の固定化が厳しい。そのため農民から高級官僚になる確率はとても低く、ビジネスマンが国家指導者になる可能性はゼロである。大学受験が階級を飛び越える唯一の策ではあるが、そのための教育費は非常に高くなっている。そのような中、今の中国の若者の間では、あきらめがはびこっており、無気力カルチャー、仏系と言われる低欲望の若者が増えている。去年、一昨年、社会問題となった「寝そべり運動」は、むちゃくちゃ勉強し、めちゃくちゃ働かされる、そういう社会に対する消極的な抵抗運動と言われている。

■孔子を攻撃し、孔子を利用してきた共産党

ケントギルバートは、中国と韓国は儒教に支配されていると言ったが、中国は孔子を捨てたのか、それとも儒教に支配されているのか、と問われることがあるが、この２つは矛盾していない。孔子は儒教の始祖であるが、そもそも儒教の本質は、為政者を諫めることにあり、権力者の批判。したがって独裁者である権力者と儒教の相性は悪く、儒教は排除すべきものである。一方で、指導者として為政に都合よく利用しやすい部分もあった為、歴史の中で、儒教を利用しようとするものと、排除しようとするものの波が交互に現れた。儒教は中国が世界に誇れるブランドであり、2000年代に国学ブームが起こったが、儒教の本質が為政者を諫めることにあるため、「共産党はおかしい」と気づき出す人が増え、習近平は調整に入り儒教批判を行うようになっている。共産党は儒教の良いところを切り張りして利用している。そして本来の儒教は、論語の教えとして日本に渡っているのである。

（抄録　野依佐千子）

《感動語録集》

◆福島香織 先生「孔子を捨てた国―中国」

＊中国はゲノムサイド
（民族をなくす計画を続けている）
＊儒教は中国が世界に誇れる唯一のブランド。
＊習近平の時代になり、いまの共産党の道徳では儒教は、中国には戻らない。
＊いまの中国では、正義・人道。礼儀を失った。
＊中国は人道問題の宝庫（失踪・誘拐・人身売買・ウイグル自治区問題など）
＊中国のメディアはプロパガンダ。
＊共産党の体制である限り中国は変わらない。
＊自分の国は自分で守る。
＊中国の人権問題には、驚きを受けた。
＊若者の無力化。
＊人身売買のブローカーが暗躍して、公然と行われている。
＊論語の否定。
＊競争社会の激化。
＊中国は人を信じない、排他的である。
その際たる者は、習近平。
＊共産党政権の独裁がまだまだ続く。
＊儒教は、日本で学ぶ。中国では、学べない。















《わたしのハガキ道》

大槻　千佳子

「心を込めて」

運送会社の社長様から、夫に毎月複写ハガキが届くようになったのは平成の終わり頃だったと思います。短い文章の中に心のこもった優しいお言葉が綺麗な字で書かれていました。頂いた時々のわれわれの心情に寄り添った文章を読み返しては心が熱くなりました。

四年前に他界した夫が残した沢山の複写ハガキの写しが出てきたのは、令和元年の月命日でした。お世話になった方々とのやり取りが目に浮かぶようで彼の思いが感じられる内容に「道」を究めたかったのだと思いました。

夫が亡くなった事を知らない方から「その後お元気になられましたか」「春にはお会いしたいですね」と複写ハガキを頂くことがあり、お返事を書かなければ、訃報をお知らせしなければと、複写ハガキに悲しみを書きました。悲しみの言葉ばかりのハガキを受け取った方がどんな気持ちになられた事か。過去に出した内容を読み返せるのも複写ハガキの良いところです。短い文章に気持ちを伝える事の難しさを痛感しました。

オンラインセミナーで、奈良薬師寺の大谷住職は、何をするにしても、①下手から始める②高望みはやめる③少しずつ上手になろう。この三つを常に心に留めておき、大切なことは「心の使い方」であるとおしゃっていました。ひとり善がりではいけません。下手でも心を込めた言葉が大切です。

自分を良く見せようと背伸びする言葉や、過去を引きずりながら書かないように。「わたしのハガキ道」を書かせていただいた事を機に、心のこもった味のあるハガキ道を目指していきたいと思います。

《塾生の本棚から》

坂本セツ

「人生二度なし」、「一日は一生の縮図なり」、「人間は徹底しなければ駄目です」・・・!!

森信三先生のお言葉は以前から屡々耳にしておりました。周りには、先生を仰ぐ道友も少なくありません。しかし、森先生の本を手にするのは極最近のことでした。ご縁に恵まれて、先生の『修身教授録』をいただき、読むことになりました。

初めて手にしたときは、普段読書の嫌いな私でしたが、意外と拒否もしませんでした。いざ読み始めると、まずは森先生の言葉の美しさ、力強さに魅了されました。更に読み進めると、常に物事の根本を観る独特な洞察力、そして何より教育という天命への情熱は先生ならではと感銘を受けました。

思えば、学生時代には、哲学ほど役に立たないものはないと思っていました。しかし、今となって、森先生が仰る一言一言の偉大さや、そこに潜む人間の叡智は何とも言えず、身に染みてきます。

「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早過ぎず、一瞬遅すぎない時に」。と先生は仰います。これは本との出会いもそうではないかと思ってきました。「修身教授録」との出会いもまさにその通りと言えましょう。

これからの人生の指針ともなるこの本は、いくら読んでも物足りなさを感じて仕方ありません。アラフィフともなる年にして、なおしっかりとして、この二度とない人生を徹していかなければと痛感いたしております。

《森　信三先生に学ぼう!!》

★仕事の手順

仕事に取り組む方法論としては、①仕事の大小、軽重をよく認識し、仕事の手順をまちがえないこと、とりわけ小事を軽んじないことが大事でありまないことが大事でありましょう。②できるだけ迅速にして、しかも正確を期するよう努めること。③常に問題意識を持ち、仕事の処理に関する創意工夫を怠らないこと。④他との協調・協力を惜しまないこと。⑤更に結実の成果を上げることは必然であり、常に会社なり、組織体へのの貢献度の如何が問われるわけであります。

★即時処理

世俗的な雑事の重圧を切り抜けられるか　それは原則的には実に簡単明瞭であります。それは「その場ですぐに片づける」ということであり、「即刻、その場で処理して溜めておかない」と言うことこそ最上の秘訣であって、おそらくこれ以外には、如何なるコツも秘訣もないといってよいでしょう。

★拙速第一

この「即今着手」「迅速処理」の原則のほかに、期日の決まっている提出物の場合は、ゼッタイに期日に遅らせないことが大事です。そのためには、八〇点カツカツの程度でよいから、とにかく期日までには仕上げることが肝要で、「拙速第一」「期限厳守」をモットーとするのがよいように思われます。

（森　信三先『運命を創る一〇〇の金言』より）

《人間学塾・中之島》次月日程

【5月日程】

◆日　程　5月14日（土曜）
　受付　午後0時～

◆会　場　大阪市中央公会堂　（会場には気をつけてください）
　三階　小集会室

◆講　師　**神渡良平　氏**

「沈黙の響き　宇宙から私たちに送られているメッセージ」



1948年鹿児島生まれ。九州大学医学部中退後、新聞記者、雑誌記者を経て独立。38歳のとき脳梗塞で倒れ一時は半身不随と成ったが、必死のリハビリで再起。この闘病生活中に、人生はたった一回しかないこと、なすべき使命があってこの地上に送られていることを痛感し、建設的で前向きな生き方をしたとき、実りある人生が築けることに目覚めていく。こうして闘病中に起草した『安岡正篤の世界』（同文舘出版）がベストセラーになり。講演や執筆に大多忙となる。『人を育てる道』（徳永康起の生き方）致知出版社など著書多数

《第十期予定》

◇会場～ほか

5月　右記日程掲載

■「卒塾文集」発刊案内

◆第十一期塾生募集案内配布

6月　大阪城ホール内コンベンションホール
　喜多川　泰氏

※第十一期塾生募集(入塾体験実施)

7月　大阪市中央公会堂(大会議室)
　岩崎順子氏

8月　大阪市中央公会堂(大会議室)

■第十期　卒塾式

《芳信抄》

埼玉県　**山下武彦様**

横田南嶺管長のお話は、実に深く広がりのある貴重なものでしたね。「枯華微笑」から「仏心」が導き出されているのですね。日本人の心に中には仏心があると、ありがたいお話があり、「稲むらの火」や「エウトゥールル号」のお話し、そして「ラフカディオハーン」の記が挙げられていますが、現代の日本の中にも「仏心」に反する哀しいことがよく報じられますし、ロシアや中国での出来事や、やり方を見ると「仏心」とはほど遠いものが感じられます。その根源は、すべて利己の固りに在るようです。

埼玉県　**大出雅一様**

禅の究極の要とは、「枯華微笑」と横田南嶺管長は説かれています。これほど簡潔な説はありません。禅と聞くだけで、何か難しいことのように考えてしまう私共にとって、「微笑み」の行いが大切で、それが禅そのものであると教えていただけたのは有り難いことでした。しかも微笑むことはそう簡単にできることではなく、努力も必要とします。慈しみの心が持てるようになって初めて微笑むことができる日常生活の中で、自分中心の心の状態を離れて、他人の思いやりに心を向けられるか、これが課題となり、精進します。

岡山県　**柴田久美子様**

横田管長の抄録に感謝しております。コロナ禍の中マスク着用で微笑みを現すことが難しいからこそ、仏心を磨く努力をと思います。精進します。

宮城県　**加藤秀夫様**

横田管長のご講話で、「枯華微笑」の教えの確信を学ばせていただきました。〃一粒でもまくまい微笑みなくなるラ根はどんなに小さくても、大事に育てよう微笑みの根〃は、松井桃楼著『微笑む禅』のことばと共に、心に刻まれました。

愛媛県　**桂　誠司様**

横田南嶺老師のお話しは、いつも心に響きます。人生の喜びとは、自分が好きなことをするのではなく、周りを幸せにすること。肝に銘じます。

愛知県　**坂部智一様**

横田南嶺管長の「枯華微笑」を拝読いたしました。笑いは健康によいと学んでおります。花が咲くことも笑うということも学びました。これから桜の開花が待ち遠しく、みなさまの「微笑み」が楽しみです。花に目を向けます。

北嶋紀子様の「わたしの本棚」から『自分の木下で』大江健三郎著のご紹介ありがとうございます。早速注文いたしました。

「後からくる君たちへのメッセージ」

自らの成長を真摯に求めて厳しい道を選んだ人生行路を語る。

・「自分の能力を遥かに超えることを求められる環境に身を置いた時に、初めて人間は成長していく」
・「人間は自分の得にならないことをやらなければ成長できない」
・「最大の危機は、目標が高すぎて達成できないことではない。目標が低すぎて、その目標を達成してしまうことだ」
・「いかなる教育も逆境から学べるものには敵わない」
・「きょうよりも明日、明後日と努力を積み重ねていく。人生においては努力を怠ることなく、最後まで成長し続けることが何よりも尊いこと」
・「忍の徳たること、持戒苦行も及ぶこと能わざるところなり――日々体験するいろんなことを我慢する、耐えるということは、宗教的な苦行にも及ばないくらい尊い修行である」

『CD鍵山秀三郎特別講話』より